第３学年　総合的な学習の時間指導案

総合的な学習の時間研究室

１．単元名　「　Ｋ町のたからボランティア　」（２０時間）

２．児童の実態

本学級の児童は，【問題解決力】については，社会科や理科において問題解決学習の手順を学んでいる。課題を自ら作ることはまだできていないが，課題から予想を考えて調べる経験はしている。【学び方・考え方】においては，国語科を中心にして発表の仕方，聞き方，まとめ方を学んでおり，様々な教科で生かしている段階である。【主体的な態度】においては，１学期単元「すてきな町Ｋ」の情報マップづくりを積極的に作成することができていた。

全般的に学習に対する意欲は高く，集中して作業したり書いたり読んだりすることができる。理科，社会科，総合学習といった３年生から始まった学習に対しての興味関心は高い。

本学級の児童は，１学期単元の『すてきな町Ｋ』においての店や公園など「おすすめスポット」をたくさん探すことができている。しかし，Ｋ校区にたくさんのボランティアの方々がいることへの認識はあまりない。２年生の生活科では地域の人のことを学習しているが，自分とのつながりを強く感じたり，課題意識をもったりはしていない。

スクールサポーター，読み聞かせの会など学校に来ている保護者や地域の方のボランティアの存在は知っている。朝，通学路に立って，交通指導をしてくださっている人達や「Ｄの会」のことは知っているが，それがボランティアであることや，なぜそのようなことをしてくれているのかなどはあまり知らない。

児童に教科と総合学習の関連についての意識調査を行ったところ，国語科と社会科が総合学習に役に立っていると感じている児童が多い。社会科では，「わたしたちの町の様子」との内容面での関連を感じている児童が多い。国語科が役に立っていると感じている児童の具体的な理由は次のとおりである（漢字を使うから，文を書くから，国語辞典を使うから，話したり聞いたりできるから）。児童にとっては，国語科で学んだ漢字や作文などの「書くこと」が役に立っていると感じている児童が多い。「話すこと・聞くこと」や「読むこと」について役に立っていると感じている児童は少ない。

３．単元の目標

○自らの体験をもとにして，ボランティアの活動を見て課題をつくり，解決までの道筋をたてることができる。【問題解決力】

○追究活動を通して，身に付けたインタビューの仕方やまとめ方，発表の仕方を生かすことができる。【学び方・考え方】

○ボランティアを楽しく行おうとする意欲をもつことができる。【主体的な態度】

○地域でボランティア活動を行っている人々に出会い，その活動を調べたり一緒にボランティアをしたりすることを通して，地域の人に愛着をもつことができる。【自己の生き方】

４．教材観

地域社会には，ボランティアで成り立っている活動や生活がある。この時期にボランティアについて学ぶことは，人のために自分ができることを行う楽しさや充実感を味わわせることにつながると考えた。

３年生という発達段階において，ボランティアの真の意味や意義などを深く理解することは難しいと考える。しかし，今後ボランティアについて学んでいくための出会いとして，ボランティアは大切なことだと認識させることはできると考えた。

Ｋ地域には数多くのボランティア団体が活動している。その活動は児童のため，お年寄りのため，地域の環境のためなど多岐にわたっている。地域のボランティア活動について調べることを通して，ボランティアをしている人々に出会わせ，その人々とコミュニケーションをとることによって，地域への愛着を更に深めることができると考えた。

今回児童に出会わせたのは，「Ｄの会」（校区内を日に３回パトロールカーでパトロールしている団体），「スクールサポーター」（学校内の安全を点検する保護者の団体），「読み聞かせの会」（朝と昼休みに児童に読み聞かせをしてくれる会），「Ｍの会」（お年寄りのサークルを手伝っている方），の方達である。

５．方法観（指導の手立て）

ア　ゲストティーチャーと出会わせる。

Ｋ校区にはボランティアをしている人がたくさんいることを知り，ボランティアとはどのようなものかをつかませるために，ゲストティーチャー（以下ＧＴ）と出会わせる。

ＧＴとの出会わせ方は，児童が課題意識をもって，自らＧＴとかかわりたいと思わせるようにして出会わせる。そのために，児童会活動のあいさつ運動の経験とＧＴが毎朝交通指導してくださっている事実から驚きをもたせ，課題を作らせる。

また，Ｋ校区にはたくさんのボランティアの人がいるんだと思わせるために，できるだけたくさんのＧＴと出会わせ，実際に話をする機会を増やす。

イ　ボランティア体験を実際に行わせる。

追究の段階において，調べる際にボランティアをしている方と一緒に活動しながらボランティアについて調べさせる。話を聞くだけではなく，体験をさせることによりボランティアがどのようなものかをつかむことができるようにする。

生かす段階において，今まで追究してきたことを振り返り，今度は，自分達に何かできることはないだろうかと考え，計画し，ボランティアを実行させる。自ら活動したいと思わせるために，今までの活動のビデオや写真を提示する。

○　単元の全体計画（全２０時間）

	主な活動と内容	指導上の留意点と支援※教科との関連	
つかむ	１．課題をつかむ。 ・あいさつ運動をふり返る。 ・GTの写真を見て，知っていることを出し合い，課題を作る。 【課題】ＳさんとＮさんとＩさんは，どうしてそこまでして毎朝交通指導（あいさつ）をしてくれているのだろうか。	・ボランティアの経験をさせるために，自主的にあいさつ運動を１週間行わせる。 ・５日間だけでも「きつい」「あいさつを返してくれなくて悲しかった」などの感想をもっていたことをふり返らせ，GT の方が何年間も毎日交通指導をしてくださっていることに驚きを持たせて課題を作らせる。	1
	２．予想を立て，調べる計画を立てる。 予想を考え，その予想を確かめるためには，GT に聞いてみるのがよいことを話し合って決める。インタビューの仕方について，国語の授業を想起する。	**※国語のインタビューの授業を想起させ，今回の学習ではどんなインタビューをしたらよいかを話し合わせる。** **※インタビューする内容を書かせる。**	2
追究する	３．追究する。 ＳさんとNさんとIさんにインタビューして，まとめる。	・インタビューしてわかったこと，自分の感想などを交流させることにより，課題の答えをまとめさせる。 **※インタビューの内容について，自己評価活動を入れる。**	3
	４．Ｋ町には他にもボランティア活動をしている人達がたくさんいることを知り，その人達の活動を調べる。 ○予想を立て，調べる計画を立てる。 ○ボランティアをしている人に聞く。 ・インタビューして追究する。 ○一緒にボランティアをしてみる。 どうしてボランティアをしているのかということやその活動を始めたきっかけなどを一緒に活動しなら聞く。	・GT の方から，「一緒にしてみませんか？」と声をかけてもらい，ボランティアをすることにより，体験からボランティアをしている人の気持ちに寄り添えるようにする。	6
	５．追究したことをまとめる。	・調べてきたことをまとめさせる。自分の考えをもちやすいように，それまでの学習の流れを掲示しておき，写真やビデオなどで児童自身に自分達の活動を想起させるようにする。	2
いかす	６．自分達でもできるボランティアを考え，実行する。 ・朝のあいさつ運動 ・学校のゴミひろい ・公園のゴミひろい	・子ども達の感想から，児童にもできるボランティア活動を考えさせ，実行させる。	4
	７．追究してきてまとめたものと自分達でボランティアをした内容や感想をまとめたものを発表する。		2